

『いわての森林づくり県民税』を活用した取組の成果について(概要)

大切な森林を守り育てるため、岩手県では平成 18 年度から「いわての森林づくり県民税」を導入しています。これによって、森林環境を守り、森林が持っている役割を維持増進させるため、間伐による森林環境の保全する取組を行ってきました。昨年度（平成 30 年度）まで 13 年間の事業実施効果は次のとおりです。

1 間伐による森林環境の保全（事業名：いわて環境の森整備事業）

- (1) いわての森林づくり県民税を活用して間伐を行い、林内に光を入れて広葉樹が育ちやすい環境を整えています。
- (2) 急いで整備をしなくてはいけない 26,000ha の森林のうち、これまでに 16,088ha の森林整備を行いました。
- (3) 今まで手入れがされず放置されていた森林が、着実に整備されたことにより、水資源のかん養や土砂の流出防止、地球温暖化防止など、森林の公益的機能が発揮されることが期待されます。
- (4) 事業の実施効果を試算した結果、約 7 4 1 億円と推定されます。

【事業実施例】



〔整備前〕



〔整備後〕

【参考】平成 18 年度～30 年度事業実施の効果（試算）

(1) 整備した森林（16,088ha）による効果 …… 約 5 9 6 億円の効果

① 水源かん養機能の向上 …… 約 6 1 0 億円の効果 ※1

⇒ 約 1, 1 0 0 万 kℓ の水資源を新たに貯留

〔⇒ 約 1 1 万 3 千人の年間生活用水量に相当〕

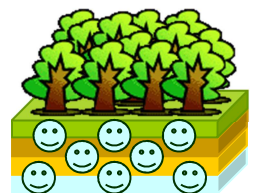
※1：ダムによる洪水調整や水道料金等のコストで代替した場合

② 土砂流出防止機能の向上 …… 約 9 9 億円の効果 ※2

⇒ 年間 3 0 万 m³ の土砂流出を抑止

〔⇒ 年間あたり、小学校の 25m プール 8 0 2 杯分の土砂に相当〕

※2：ダムによる土砂を保全するコストで代替した場合

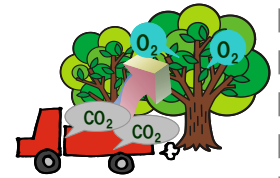


③ 二酸化炭素吸収効果 …… **約3.2億円の効果** ※3

⇒37,200 t/年の二酸化炭素を吸収

[→ 自家用車 約1万6千台が1年間に排出するCO₂の量に相当]

※3：火力発電所で二酸化炭素を分離回収するコストで代替した場合



(2) 雇用の創出による山村地域の活性化

森林の間伐作業は、ほとんどが人力作業により行われるため、事業の実施は**2,132人(年間164人)**に相当する雇用創出につながると推定され、山村地域の活性化が図られています。

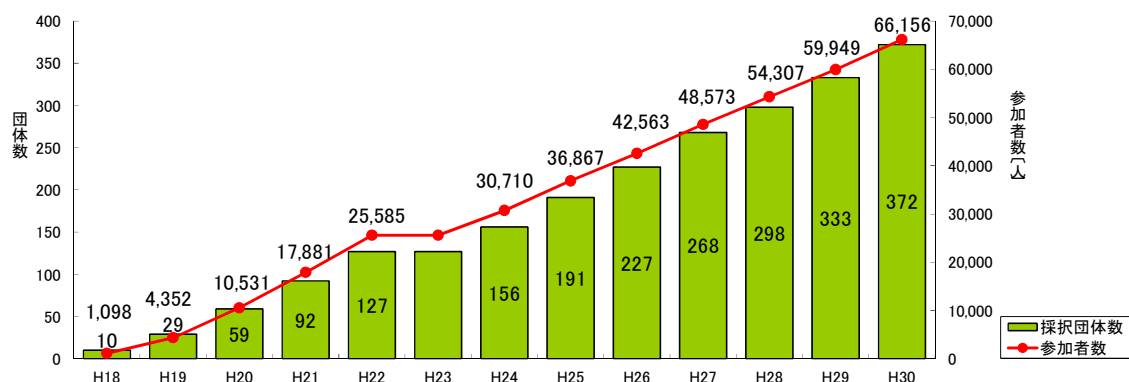


(整備した森林の効果は「林野公共事業における事前評価マニュアル(林野庁)」を用いて試算しました)

2 県民の方々の森林づくり活動への助成 (事業名：県民参加の森林づくり促進事業)

- (1) 地域の方々などが行う身近な森林を守り育てる活動を進めることにより、地域の森林の保全に対する理解を深め、住民の参加を広げる取組を行っています。
- (2) 平成18年度から30年度までの13年間(22年度は事業休止)で、**延べ372団体**を支援し、**延べ65,000人**を超える方々が参加し、県民参加の取組が広がりました。
- (3) 沿岸被災地の支援を目的とする「被災地枠」を平成24年度に新設し、沿岸地域の延べ27団体を支援し、県産材を使用したテーブル、木製遊具などを公共施設や児童館、保育園に整備しました。

支援した活動団体数と参加者の推移 (※平成23年度は東日本大震災の影響により中止)



【支援団体の活動事例】



〔 森林づくり活動 〕



〔 森林所有者への啓発活動 〕



〔 森林づくり活動 〕



〔 多様な担い手の育成活動 〕



〔 森林環境学習活動 〕



〔 木工体験活動 〕

【被災地枠の活動事例】



〔 林野火災被害森林
で森林整備活動 〕



〔 保健福祉センターに木製の
乳児用診断ベッドを整備 〕



〔 保育施設に野外遊具を整備 〕

【いわての森林の感謝祭の様子】



〔 H29・奥州市 〕



〔 H30・宮古市 〕



〔 R1・大船渡市 〕

3 児童・生徒等を対象とした森林環境学習の開催（事業名：いわて森のゼミナール推進事業）

- (1) 児童・生徒を対象に、森林・林業に関して学習する機会を提供しました。
- (2) 森林学習会では、多くの児童・生徒が「森林に興味を持った」と答え、「森林をもっと調べたい」「また枝打ちをしたい」などといった声が聞かれるなど、参加者の関心度は高く、森林・林業に対する理解を深めることにつながりました。
- (3) 具体的な取組内容
 - ① 森林学習会などの開催
児童・生徒を対象とした、森林インストラクターなどの指導者による森林環境学習を、小中学校、延べ227校で開催し、6,513名が参加しました。
 - ② 森の実践ゼミナールなどの開催
地域住民の自主的な取組が県内各地で活発に行われるよう、森林や林業に関する基礎講座やリーダーの育成研修などを開催し、791名が参加しました。

【活動事例】



4 いわての森林づくりのPR、啓発（事業名：いわての森林づくり普及啓発事業）

平成 18 年度から 30 年度までの 13 年間、下記のさまざまな方法で普及啓発を進めました。
 （平成 23 年～25 年は事業休止。ただし「いわての森林の感謝祭」は平成 24 年度から再開）

- (1) いわての森林の感謝祭〔H20～22、H24～30〕（10 回）
- (2) 新聞による広告〔H18～30〕（13 回）
- (3) 啓発イベントの開催（成果報告フォーラムなど）〔H18～30〕（8 回）
- (4) 映像資料（DVD）製作による各地のイベント・学習会などでの放映
- (5) パンフレットやポスターの作成配布〔H18～30〕
- (6) ホームページによる情報発信（随時）
- (7) 県政広報（テレビ、ラジオ、メールマガジン、新聞、広報誌など）による情報発信
- (8) その他イベントなどによる情報発信

【活動事例】



〔 いわての森林の感謝祭 〕



〔 新聞広告 〕

5 これらの取組の評価・検証を行う機関の運営（事業名：事業評価委員会運営費）

- (1) 外部有識者や公募の方など 10 名により構成される「いわての森林づくり県民税事業評価委員会」を設置し、県民税を活用して行う事業の審査や評価・検証、現地調査などを 13 年間で計 84 回開催しました。
- (2) 委員会では、県民の方々がより活用しやすい仕組みへ見直すなど、さまざまな意見をいただき、これらは関連事業に反映されています。

森林整備イメージキャラクター
カンバツ君



〔岩手県農林水産部林業振興課作成〕

この印刷物には再生紙を使用しています。